

令和2年度 公益財団法人米沢上杉文化振興財団運営内部評価

《 財団目標 》

郷土愛を育み、教育、学術及び文化を振興し、広域交流を促進する。

《 評価の考え方 》

- ・ 当財団の目標、運営方針及び事業活動方針にもとづいて行われる財団の業務や活動の全般を評価対象とする。
- ・ 業務や活動は、本年度事業計画に記載された具体的取り組み等について、個々の事業の達成度合いをそれぞれの担当が評価する。
- ・ 可能なものは数値目標を掲げ、それ以外の目標も評価しやすい具体的な表現を心がける。
- ・ 達成度は右の4段階で評価し、平均値で表示する。
- ・ 評価結果から成果と課題を抽出して共有し、具体的改善策を講じて財団運営及び組織活動の改善を図る。

達成度

- 4 高い成果が得られている(95%以上)
- 3 一定の成果が得られている(80%以上)
- 2 まだ課題がある(80%未満)
- 1 成果が得られていない(50%未満)

■ 新型コロナウイルスの影響で中止・延期した事業

事業名	活動方針	具体的取り組み(評価基準)	達成度	担当	成果(○)	課題(■)及び改善策(□) コロナ対応(▲)		
(1) 必要な図書、記録、資料の収集、保管、調査研究、公開展示及び利用に関する事業	① 上杉家・米沢藩ゆかりの資料及び郷土作家作品の収集と調査研究を体系的に進める	歴史関連 米沢藩・上杉家ゆかりの資料に関する情報の収集と整理に努める※	2.0	2.0	学芸※ 上杉文化	○ 実績から多くの情報がよせられる。 ○ 綿貫家旧蔵書約100点他の再整理を実施。	■ 網羅的な情報の収集・整理の進展 ■ 他の業務の中で優先順位が下がる	
		受入資料、寄託資料の概要調査・目録作成を進める。※	2.0					
		美術関連 米沢・置賜ゆかりの作家及び作品・二次資料の調査、情報収集を進める	2.0	2.0				
		上杉本洛中洛外図屏風に関する情報の収集と整理に努める	2.0					
		米沢市上杉博物館資料収集基本方針に基づき資料の収集・充実に努める	2.8	2.5				
		市民や関係機関とのネットワークを広げながら調査研究を進める	2.2					
		郷土ゆかりの図書・雑誌・古典籍・古文書等の調査・収集に努める	4.0	4.0				
		広幡地区の神社や堂宮の資料・民俗等を調査し、年度内に報告書を刊行する	4.0					
	② 地域の人々が郷土に誇りと愛着をもち、観光客に感動を呼ぶ魅力的な展示をめざす	企画展示	特別展「関東管領上杉謙信」 職員評価平均値	3.3	2.8	学芸	○ 感染予防策を講じながら開館 ○ 入館者数2,625名/見込15,900名(16.5%) ○ 入館者数5,823名/見込4,900名(119%) ○ 入館者数16,087名/見込15,400名(104%) ○ 入館者数1,444名/見込2,000名(72%)	▲ 臨時休館し後期のみ開館 会期中26日間は移動制限措置 ▲ 2021年2月~3月に延期して開館 ▲ 2022年度(予定)に延期 ▲ ■ 感染防止で実施が困難に □ この状況下での評価すべき事項を整理
			入館見込数を上回る	1.0				
			企画展「138億光年 宇宙の旅」 職員評価平均値	3.4				
			入館見込数を上回る	4.0				
			企画展「日本画をたのしもう 高精細複製が語る名品の世界」 職員評価平均値	—				
			入館見込数を上回る	—				
			特別展「米沢城 上杉氏の居城」 職員評価平均値	3.3				
			入館見込数を上回る	4.0				
			コレクション展「米沢藩 武士たちの行列」 職仕事員評価平均値	3.2				
			入館見込数を上回る	2.0				
		コレクション展「女性像の世界/いま見せたい！」 職仕事員評価平均値	—					
		入館見込数を上回る	—					
		職員と来館者の評価を適時に行い成果や課題を明らかにする	1.3					
		常設展示 文華館では「上杉鷹山の藩政改革」を6本の小テーマ(12回)で紹介する	3.0	3.0	▲ 文華館は一部コロナにより中止			
		先人顕彰コーナー	「資料展示 故実叢書」 職員評価平均値	3.5	3.2			
「ミニ展示：田中俊雄」 職員評価平均値	—							
「新聞記事にみる昭和史(戦後編)」 職員評価平均値	2.9							
「秋山庄太郎展」 職員評価平均値	2.8							
「写真で見る米沢のむかし パート3」 職員評価平均値	3.4							
「林泉文庫の世界」 職員評価平均値	3.4							
③ 市民に必要な図書・記録等の収集に努め、広く利用に供し、相談に応じる	市立米沢図書館資料収集方針に基づき図書・資料の収集・充実に努めると共に、利用者の利便性に配慮した適切な配架を行う	3.6	2.5	図書 郷土資料	○ 登録者数 1,200名(R1 1,917人) ○ 貸出冊数 328,886冊(R1 410,168冊) ○ 貸出冊数 29,139冊(R1 35,840冊) ○ HPのレファレンス受付フォームを新設	□ 団体、学校への図書館利用の手引き等作成		
	利用者の求めに応じ、他館との相互貸借を円滑に行う	3.2						
	新規登録者数は1,800人超をめざす	2.0						
	本館の年度貸出冊数は40万冊を上回る	2.0						
	自動車文庫の年度貸出冊数は3万5千冊をめざす	2.0						
	図書館団体貸出制度の利用促進に努める	2.5						
各種のレファレンスや相談に丁寧に対応し、データベース化を進める	2.5							

事業名	活動方針	具体的取り組み（評価基準）	達成度	担当	成果（○）	課題（■）及び改善策（□）コロナ対応（▲）	
	④文化財等の適正な保存・管理に努め、収蔵文化財総合データベースの充実を図る	新規受入資料のデータベース登録95%をめざす	4.0	3.5	学芸	○ 98%登録完了(3月末139件) ○ 1,000点以上を登録 ○ 屏風2件と刀剣の応急修理	■ 荒井家文書約460点、栗林家文書約80点未登録 ■ 学芸個々の手入れ技術の向上と、状態の細かな記録（錆の改善状況など）が課題
		受入資料の撮影および登録を500点進める	4.0				
		未受入資料及び寄贈・寄託資料の調査・受入作業を計画的に進める	2.8				
		企画展等を契機に未撮影資料の撮影を計画的に進める	2.8				
		資料の燻蒸、収蔵庫のクリーニング及びIPM管理を適切に行う	3.6				
		収蔵庫や展示室の適正な空気環境の維持に不断に努める	3.6				
		所蔵する資料や芸術作品の修繕・修復を計画的に進める	3.4				
		館蔵・寄託刀剣の手入れを計画的に実施する。(原則年2回)	3.8				
		新規受入資料のデータベース登録、調査を計画的に進める	2.6	1.9	学芸・郷土	○ 13,814点（3月末現在、86点追加）	■ 基本情報登録の次の段階の調査進捗が課題(学芸)/ 入力項目の反映が行われていない(郷土) ■ 定期的な更新のための協力体制と作業時間の確保/公開データベースのコンバートシステム改善のためノムラテクノと詳細打合せを行った(学芸/郷土) 入力項目の反映が行われていない(郷土)
		新規受入資料、未撮影資料の撮影を計画的に進める	2.2				
収蔵文化財総合データベースの登録件数を1万4千件まで増やす	1.0						
		デジタルライブラリー公開資料の翻刻掲載を計画的に進める	2.0	郷土資料		■ 翻刻資料の校正が進んでいない	
②教育・学術・文化施設との連携及び教育普及に関する事業	①家庭教育の向上や学校の学習活動の支援に力を注ぎ、子どもの読書活動を推進する	「米沢市子ども読書活動推進計画」に基づき、その中心となる「家読」を積極的に推進する	3.0	3.3	図書	○ 贈呈446組(892冊) ○ 毎月のおはなしかいは中止。感染症対策を行いながら、9・10・11月に1回ずつ開催した。 ○ 407点展示。1937名来館。 ○ 参加者数54人（BYツアー・BM見学）ガチャ玉配布549個 ○ コロナ対応のため期間を変更して実施 ○ 参加者396名（R1 531人） ○ 配布数410冊（12月末）	■ 米沢市と共同で「家読」の周知を目的としたリーフレットを作成・配布した ■ サポーターの参加と読み聞かせは中止。健康教室中止時の対象者へは、図書館で絵本を配布した ■ おはなしかい、ワークショップなどの対面で行うイベントは中止した。代わりに家庭で楽しめるイベントを増やした ▲ コロナ禍で実施できず ■ 保護者と児童が記入する「本の紹介カード」を募集し令和3年に展示。応募者から抽選で20名に図書カードを贈呈
		ブックスタート事業として、7ヵ月児健康教室時に絵本の読み聞かせと絵本2冊贈呈を行い、図書館の利用促進を図る	4.0				
		読み聞かせの楽しさに触れてもらう「おはなしかい」を月3回開催する	-				
		市内小中学校と連携し、読書活動推進の一環として小中学生読書感想画展を開催する	4.0				
		夏休みこども図書館フェアを開催し、前年度と同等、もしくは上回る参加者をめざす	3.0				
		小学校巡回文庫は市内全小学校を対象に年3回の配本・回収を行う	4.0				
		「アタゴオル」による絵本読み聞かせを年2回以上開催する	-				
		関係機関と連携してスタンプラリーを実施し、前年度の達成者数を上回る	2.0				
		「読書通帳」の利用促進を図る	3.0				
			②日常的な地域学習の場となる多様なプログラムを用意し、学社連携を推進する				
WSは「つくる」をテーマに、毎回定員の80%以上の申込数をめざす	2.0						
チルドレンキュレーターズ（こども学芸員）の育成を継続して行う。	3.0						
ミュージアムスクールと出前授業を合わせて年15時間以上実施する	4.0						
博物館実習とインターンシップ指導プログラムの充実を図る	3.3						

事業名	活動方針	具体的取り組み（評価基準）	達成度	担当	成果（○）	課題（■）及び改善策（□）コロナ対応（▲）	
③ 生涯学習施設また地域の交流拠点として、市民の学習と活動の機会を提供する	教育事業	特別展等の理解深化を目的に年2回の講演会等を開催する	4.0	3.3	学芸	▲ ○春の特別展は中止・秋の特別展、宇宙展で開催 ▲ ○ガイドラインに沿って当初は休止し、その後は感染対策をしながら再開 ○ 米沢城に関連した映像を制作	▲ ■コロナ禍の推移の中で臨機応変な開催 ▲ 謙信展ではGT4回すべて中止 □ 解説動画を配信 ▲ 文華館CTは計画12回中4回中止。再開後は時間をずらして密にならないよう配慮 ■ コロナ対応のため入力が滞りがちになった
		企画展等の会期中に年10回以上のG Tを開催する	2.0				
		文華館では小テーマごとに計12回のC Tを開催する	3.0				
		上杉家・米沢藩の歴史理解に資するコンテンツを新規に制作する	3.8				
		レファレンスは内規に従って処理し、データベース化を進める	3.6				
		ふるさと歴史講座を年3回開催する	4.0				
		古文書解説講座を年2回開催する	4.0	4.0	郷土	○ 11月に3回実施 ○ 2月に3回実施 ○ 10月に3回実施	■ 広報の方法を考え、魅力ある講座にし受講者増員を図る
		文学講座を年3回開催する	4.0				
		博物館所蔵美術作品を年2回、市内の学校・公共施設に貸し出す	4.0				
		ホームページやブログ、フェイスブックでの充実・更新につとめる。	3.4	3.7	学芸	○ 6月と12月に実施 ○ コロナ禍における博物館の情報発信を活発に行った。	■ 更新する技術をより多くのスタッフが身につける
		内覧会の広報に努め、1回あたり平均20名超の参加をめざす	-				
		中学生・高校生の「無料観覧証」の利用促進に努める	2.0	2.0	総務		▲ コロナ対策のため中止
		来館者の読書意欲を高める特集コーナーづくりに努める	3.5				
		ナセBAホームページ、ツイッターの充実・更新に努める	3.0	3.1	図書 郷土資料	○ 4/1.7/1.10/1.1/1 4回発行 ○ 634名(付録抽選応募者含・前年比129%) ※ 付録抽選会会場を先人顕彰コーナーに移動、リサイクル市の期間を延ばしたことに由る。	□ ツイッターの更新内容がホームページとほぼ同じ。ツイッターの即時性を活かした内容をアップする ▲ コロナ禍の影響で規模を縮小 ▲ コロナ禍で実施できず
		「図書館だより」を年4回発行する	4.0				
		読書週間図書館フェア関連事業の参加者は前年度と同等、もしくは上回る参加者をめざす	4.0				
		英語多読を推進し、英語多読サロンを月1回、相談会を月1回開催する	3.0				
		読書活動の推進のため、読書会を隔月1回開催する	-				
	図書館で導入しているデータベースの周知につとめ利用促進を図る（新規）	2.2					
	障がい者の生涯学習支援体制の整備を進める	2.2					
	施設貸与事業 (博会議室)	貸出基準にもとづき適正に貸与する	3.5	3.3	舞台		
		金銭処理や利用実績の管理及び各種報告を適時適切に行う	3.0				
		利用者のニーズを把握し、市と連携して利用促進に努める	3.5	4.0	総務		
	(駐車場)	金銭処理や利用実績の管理及び各種報告を適時適切に行う	4.0				
	利用者のニーズを把握し、市と連携して利用促進に努める	4.0					
④ 市民の経験や知識及びボランティアと協働し、各施設のサービスの充実と努める	サポーター 運営 (伝国)	「活動要綱」に基づいて活動し登録数及び活動人数を増やす	4.0	2.2	サポーター 担当	○ 登録者数 34名（前年比117.24%） ▲ ○活動休止期間もサポーターへ館の状況をお知らせ。感染対策をとりながら部分的に活動再開	▲ コロナ対策のため活動一部休止（県の警戒レベル3で活動休止とした） ▲ コロナ対策のため活動一部休止
		年間活動計画を策定し、サポーターの活動機会を広げる	2.3				
		よりよい活動に資するため研修を実施する	1.3				
	(図書館)	爾後の活動に資するためアンケートを実施する	1.0	1.9	図書 郷土資料		▲ コロナ感染防止のため全体会・研修を実施できず
		年間活動計画を策定し、サポーターの活動機会を広げる	2.0				
		よりよい活動に資するため研修を実施する	1.2				
	(ギャラリー)	図書館サポーター活動への理解促進に向けた広報を充実する	2.4	3.0	総務企画 副館長	○ 3月にサポーター通信を発行	
		展示の企画や運営に市民の声を反映し内容の充実と努める	3.0				
	ファン クラブ 事業	特典の周知や広報活動を強化し330人の会員登録をめざす	2.0	2.3	FC担当	○ 登録者数246人 ○ 当初計画は中止。新規に「芸術サロン」開催	▲ 4~5月休館もあり入会・更新とも伸びず ▲ コロナのため未利用会員が28%と前年より10パーセントほど増加。 ■ チケット先行予約と割引枚数を見直し ▲ 臨時休館した分を招待券などで還付
		ファンクラブ会報（年2回）及び各事業情報を適時に送付する	4.0				
		ファンクラブ会員限定事業を2回開催する。	2.0				
		博物館及びホール事業未利用会員を15%未満に減らす	1.0				
	さらに魅力あるクラブをめざしてPRを強化し、特典の見直しを進める	2.5					

事業名	活動方針	具体的取り組み（評価基準）	達成度	担当	成果（○）	課題（■）及び改善策（□）コロナ対応（▲）					
③ 芸術・文化活動の創造、支援及び鑑賞機会の提供に関する事業	① 優れた作品や舞台芸術に親しむ機会を提供し、芸術・文化活動の創造気運を高める	県補助事業	カフェ・ライブ・夏 職員評価平均値	—	2.5	○ 来場者数 142名/目標210名 (67.62%)	▲ 回数を1回とし会場をカフェからホールへ変更 ▲ 中止 ▲ 実演会場をエントランスからホールへ変更 ▲ 中止				
			入場見込数を上回る	—							
			カフェ・ライブ・冬 職員評価平均値	3.0							
			入場見込数を上回る	2.0							
			楽器体験ワークショップ	—							
			入場見込数を上回る	—							
		映画「よあけの焚き火」鑑賞会&大蔵流狂言会	3.0	○ 来場者数 175名/目標 237名 (73.84%)							
		入場見込数を上回る	2.0								
		伝国の杜オーケストラ 職員評価平均値	—								
		入場見込数を上回る	—								
		「山形交響楽団ユアタウンコンサート2020米沢公演」 職員評価平均値	3.5					○ 来場者数 221名/目標 223名 (99.10%) ○ 来場者数 401名/目標 467名 (85.87%) ○ 来場者数 229名/目標 231名 (99.10%) ○ 来場者数 171名/目標 226名 (75.66%) ○ 来場者数 167名/目標238名 (70.16%)	▲ 合唱団招集を中止し管弦楽のみで演奏 ▲ 客席50%以下 ▲ 客席50%以下 ▲ 中止 ▲ 客席50%以下 ▲ 客席50%以下+1列目停止 ▲ 中止		
		入場見込数を上回る	4.0								
		「福田直樹トーク&ピアノライブ」 職員評価平均値	3.3								
		入場見込数を上回る	3.0								
		「朗読劇『日の名残り』」 職員評価平均値	3.4								
	入場見込数を上回る	4.0									
	「吹奏楽の日コンサート」 職員評価平均値	—									
	入場見込数を上回る	—									
	「スギテツ with 溝口肇」 職員評価平均値	2.7									
	入場見込数を上回る	2.0									
	「Jスコラーズ 合唱コンサート」 職員評価平均値	3.7									
	入場見込数を上回る	2.0									
	「落語公演」 職員評価平均値	—									
	入場見込数を上回る	—									
	よねざわ市民ミュージカル活動を支援する	3.0									
	市共催事業（文化ホール）	「石丸幹二×吉田次郎」 入場見込数を上回る	—	1.0	舞台	○ 来場者数 310名/目標 916名 (33.84%)	▲ 収容率50%以下とするための大幅な計画変更。 ■ 中止PRが目立ち再販売が伸び悩んだ。				
		「DRUM TA0」 入場見込数を上回る	1.0								
		事業計画書や広報計画書及びチラシ等を適時に作成し、広報活動を強化する	2.5	2.8				○ オケストラ演奏曲リクエストを参考になっている。			
		自主事業入場者のアンケートを分析して、次年度以降の採択事業に反映させる	3.0								
		ギャラリー	「アーツよねざわ・100祭」 職員評価平均値	—				3.2	総務企画 図書 郷土資料	○ 来場者数1,640名/目標1,669名 ○ 博物館と連携しオープンギャラリーでの展示実施 ○ コロナの影響があり3回の展示を実施	▲ 令和3年度に延期 ▲ 令和3年度に延期 ▲ 休館に伴い1回分中止
			入館見込数を上回る	—							
	「生誕100年秋山庄太郎展」 職員評価平均値		—								
	入館見込数を上回る		—								
「ARTS MEET OKITAMA2020、2020大賞展」 職員評価平均値	3.3										
入館見込数を上回る	3.0										
芸術団体や上杉博物館と連携し、市民の芸術鑑賞の機会を広げる	3.5	3.3									
オープンギャラリーでは郷土出身作家作品を年間4回展示する	3.0										
② 充実した展示機能で新たな芸術活動にも対応し、市民の活動成果を広く公開	市民の多様な芸術文化活動の発表の場をつかひやすく提供する	3.7	3.5	副館長 総務企画	○ 稼働率78.7% ○ 稼働率65.6%						
	市民の芸術文化活動の拠点として機能する	3.3									
	市民ギャラリーは公平・公正を旨として運営し、80%以上の稼働率をめざす	3.0									
	体験学習室は50%以上の稼働率をめざす	4.0									
③ 活動を楽しみ交流する場を提供し、次世代を担う子どもや若手芸術家を育成する	地元のアマチュア活動団体等に活躍・研鑽の場を提供する	2.5	2.8	舞台	○ 小中高生44名招待	▲ 管弦・吹奏楽・能狂言の各分野で支援策停止					
	地域の小中高生50名の、当ホールコンサートへの招待を支援する	3.0									
	中心市街地の活性化支援としてウッディコンサートを年間5回開催する	—	3.7	副館長 総務企画		▲ 感染防止対策に伴い年度内の開催をすべて中止 □ AMO2021にて若年層の参加増を目標に運営予定					
	次世代を担う子どもや若手芸術家の育成を支援する	3.7									

事業名	活動方針	具体的取り組み（評価基準）	達成度	担当	成果（○）	課題（■）及び改善策（□） コロナ対応（▲）		
	④ 能舞台を活用して伝統芸能の継承・普及につながるプログラムを展開する	山形県能楽の祭典 職員評価平均値	—	舞台	○ 稽古6回・発表1回開催	▲ 中止		
		入場見込数を上回る	—					
		狂言クラブでは年12回以上の稽古、年4回以上の発表を行う	2.0					
		能狂言を通して広域の交流を促進し、演技の向上をめざす	2.0					
4) 歴史・芸術・文化活動拠点の運営に関する事業	① 上杉家・米沢藩及び郷土作家研究の拠点として、広く開かれた施設をめざす	所蔵資料の解説、写真撮影及び目録作りを計画的に進める	2.2	学芸	○ 厳格には行えていない ○ 謙信展、米沢城展で発行	■ 感染対策の方法模索に時間をかける発表の機会が減少 ■ 交流を目的とすることが困難		
		資料の特別利用・貸出及び掲載許可等は規則にもとづいて厳格に行う	2.6					
		年間2冊以上の企画展図録を編集・発行する	4.0					
		サポーター洛案内人による国宝屏風の説明を日常化する	2.0					
		年間10回程度、研修会や講演等の講師として成果を市民に還元する	1.0					
		大学や研究機関との協力や共同研究を進め、学芸員の力量を高める	3.0					
		古文書資料や郷土資料の整備を進め、市民や研究者の利用に供する	3.7	局長	○ マイクロスキャンニング資料を内部使用開始	▲ コロナ対策のため活動休止 ▲ コロナにより開催の中止等		
		ミュージアムショップ事業	展示会と連動した運営で、図録や商品を積極的に販売する	4.0	3.3	総務	○ 新規開発とり止め、4種の商品を新規仕入販売 ○ 東京都で開催された2つの展示会に販売を委託（桃山展、後藤克芳展） ○ 前年度比約18%増	▲ 「やまがたの文化応援クーポンキャンペーン」による割引を実施
			新規商品の開発に取り組み、製品化する	1.0				
			利用者の利便性と販路拡大のためネットショップを充実させる	3.5				
	受託商品の充実を図り、他館への委託販売にも積極的に取り組む		4.0					
	② 市民の伝統文化活動を支援するとともに、歴史・芸術・文の情報発信に努める	芸術文化活動のための施設貸与業（ギャラリー）	貸出基準に基づき、公益性を保って適正な運営に努める	4.0	3.5	副館長 総務企画	■ 事業広報の不足	
			米沢市芸術文化協会と連携し、利用者に喜ばれる運営を行う	3.3				
			施設情報の発信に努め、地域の芸術文化の振興に寄与する	3.0				
			施設の管理を適切に行い、施設・設備の適正な維持に努める	3.7				
		(座文)	「座って行う日本文化」の活動施設として適正な運営に努める	3.5	2.8	総務	○ 件数74件（前年比約40%） 利用者数895名（前年比約23%） ○ トイレの改修、垣根の新調等を実施	▲ ■ 感染症対策による利用減、行事の中止が「座の文化」の伝承・発展に与える影響の大きさ
			喜ばれる運営をめざし、利用件数・利用者数で前年度並みを維持する	1.0				
		座の文化伝承館自主事業	施設の管理を適切に行い、施設・設備の更新を計画的に進める	4.0	3.0	舞台 学芸 サポーター担当	○ 入場者413人	▲ 感染拡大防止のため中止 ▲ 感染拡大防止のため中止 ▲ 感染拡大防止のため中止
第29回市民茶会への入場者200名以上をめざす			—					
蔵のコンサートの入場者50名以上をめざす			—					
「型と型紙の世界」展の入場者200名以上をめざす			4.0					
③ 利用者の声を集め反映する仕組みを整え、市民に開かれた運営をめざす	清掃や環境美化に努め、清潔で快適な空間づくりに努める	3.0	2.9	図書 郷土資料				
	利用者の意図を理解した上で説明と対応を丁寧に行う	3.3						
	各種アンケート調査を実施・分析し、来館者サービスに反映させる	2.5						
	市民の声を職員会議等で検討・共有し、運営の改善に努める	2.5						
④ 上杉文化エリアの施設団体と協力し、価値ある文化及び観光の交流拠点をめざす	図書館蔵書の除籍と廃棄を適時に行う	3.2	3.0	事務局長				
	展示会やホール自主事業で、上杉文化エリア懇話会会員との連携を促進する	3.0						
	観光拠点の一つとして、米沢四季のまつりに積極的に参加する	2.5						
	施設内外の案内表示の修繕・更新及び環境の美化に努める	4.0						
	ホームページ、ブログ、フェイスブックの充実・更新に努める	4.0						
	有料・無料の広告媒体を積極的に活用して広報に努める	4.0						
⑤ まちづくりネットワークと連携し、にぎわいと活力あるまちづくりに寄与する	博物館無料入館の日の周知・広報に努め、前年度同日の入館者数を上回る	2.0	2.5	図書館長	○ 延べ1,043名（前年比約56.8%）	▲ ■ 例年入館無料としている5/5子どもの日、5/18国際博物館の日は、今年度臨時休館中であった		
	「こまや」を活用し、地元商店や各種団体との共催事業を季節にあわせ行う	3.0						

事業名	活動方針	具体的取り組み（評価基準）	達成度	担当	成果（○）	課題（■）及び改善策（□） コロナ対応（▲）	
(5) 財団の適正な運営に関する事業	① 公共施設であることを念頭に、経営基盤の安定と利用者及び収入の確保に努める	法令や関係協定及び財団の定款・諸規程に基づき適正な管理を行う	3.0	2.6	事務局長		▲ 外出・移動の制限、広報活動の抑制等
		理事会や評議員会等の開催及び運営を円滑に行う	3.0				
		予算の執行及び財務管理を適正に行う	3.0				
		財団運営に必要な外部の研修会及び研究会等へ計画的に派遣する	3.0				
		伝国の杜の利用者総数は20万人を上回る	1.0	3.0	総務		
		博物館入館料は収入見込み額を確保する	1.0				
		ギャラリー、駐車場の使用料を適正に徴収し期限内に市に納付する	4.0				
		50万円を目標に寄附金受け入れ業務に積極的に取り組む	4.0	1.0	学芸		
		博物館常設展・企画展の延べ入館者数は12万人超をめざす	1.0				
		体験学習室利用者数は延べ1万2千人超をめざす	1.0	2.5	舞台		
	県補助事業及び市共催事業の会計事務処理を適正に行う	3.0					
	文化ホール自主事業入場者4千人超をめざす	2.0	2.0	図書館長			
	図書館閲覧室の延べ入場者数は20万人超をめざす	2.0					
	図書館学習室の延べ利用者数は8万人超をめざす	2.0	2.8	総務 総務企画			
	市民ギャラリーの延べ入場者数は4万人超をめざす	2.0					
	市民ギャラリー自主事業へ貸し出す美術作品等の選定・管理を適切に行う	3.0					
	② 施設個々の機能の向上と発揮に努めるとともに、施設相互適切な連携を進める	職員勤務シフトを計画的に作成し、緊急時の職員配置も確実に実施する	4.0	2.8	総務 総務企画	○ 利用者数9名（前年比約20%）	
		各施設の総合管理業務委託者と調整を密にし円滑な施設管理に努める	3.5				
		図書館カード利用による博物館入館者数は前年度を上回る	1.0				
		市民ギャラリー自主事業へ貸し出す美術作品等の選定・管理を適切に行う	3.0	学芸 総務企画 図書・郷土			
		博物館の展覧会に合わせて関連図書の特集コーナー等を設ける	3.0				
		③ 利用者及び職員の安心・安全を第一に、施設設備の保守及び危機管理に取り組む	業務・事業の見直しを進め、時間外労働や多忙感の縮減に努める	3.0	3.0		事務局長
			施設・設備の保全に努め、修理と更新を計画的に進める	3.0			
職員の健康診断及び健康保持に関する業務を適正に推進する			3.0	4.0	総務		
火災や地震を想定した避難訓練を年2回実施する			4.0				
資料や施設設備・機器の修繕・更新を計画的に進め、環境整備及び維持管理に努める			4.0	4.0	図書 郷土資料		
火災や地震を想定した避難訓練を年2回実施する	4.0						
利用者の個人情報は関係法令と財団規程にもとづき厳密に扱う	4.0						
④ 複数の内部評価・外部評価に取り組み、運営やサービスの改善に努める	財団運営の目標及び方針を明示し、財団運営自己評価シートを作成する		3.0	3.0	事務局長		
	複数の評価に取り組み、事業やサービスの改善・向上に努める	3.0					
	新採研修や各種研修会を効果的に実施し職員の資質の向上をめざす	3.0					
	伝国の杜運営協議会を年2回開催し、運営や事業の改善に努める	3.0					
	ナセBA運営協議会を年2回開催し、運営や事業の改善に努める	3.0	3.5	総務 学芸			
	普及ミーティングを毎月開催し、スタッフの資質向上をめざす	4.0					
	接客マニュアルの更新を進め、接客サービスの向上に努める	3.0					
	新型コロナウイルス対応をガイドラインに沿って実施した。	4.0					

の事業は収益等事業